

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

コロナ収束の見込みは依然として不透明であるが、感染症対策を取りながら継続されてきた地域活動も多く、地域の方々の健康維持、意欲の向上につながっている。その一方、外出の機会が減ることで、身体機能、認知機能が低下し、包括の相談につながる高齢者が増えている。日野地区、日野南地区とも、本人支援だけでなく家族まで視野に入れた支援が必要であるため、専門職や地域の方々との連携はますます重要となっている。介護保険サービスの隙間を埋める既存の活動や集いの場等を続けていけるよう、ケアプラザ内の各専門職が情報収集を行い、インフォーマルサービスを支援に活かしながら地域との連携を深めることが不可欠である。

また、これまで地域活動を支えてきた方々の高齢化や高齢者の就業増加により、活動の担い手不足が課題とされているが、様々な世代が負担なく活動を担っていけるよう、視点を変えて活動者を広げて行く必要がある。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・五職種で地域アセスメントを行い、地域のニーズを把握していく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・認知症高齢者や家族支援が必要な世帯等の現状を把握し、必要な関係機関につなげると共に地域での見守り体制を構築していく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・地域支援チームで情報を共有し、地域の課題、ニーズに寄り添った地域づくりの推進に取り組みながら、第4期地域福祉保健計画の周知に努める。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・個別レベルの地域ケア会議から地域課題を抽出し、包括レベルの地域ケア会議を開催する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・「新しい生活様式」に沿った取り組みとして、オンラインなど様々なツールを活用し、住民の心身の健康や安心感につながる事業を実施する。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

相談業務では、困難ケース及びコロナ禍での件数の増加に5職種の連携により対応した。地域ケア会議は昨年の実績を踏まえて個別ケースに取り組んだ。年度内にさらに1回実施する。介護事業所連絡会の開催、見守り協力事業者の訪問など地域との連携、協力により、見守り体制を築いている。地域活動の復活、新たな活動に積極的に協力し、地域の方々の健康維持、意欲の向上に貢献している。認知症理解促進では引き続き、小・中学校への出張講座に力を入れた。また、ハイキング等の介護予防事業、エンディングノート、記憶の仕組などの講座を開催。広報ではLINE公式アカウントを開設した。今後、定期的な発信に向けて検討していく。

第4期ひまわりプラン日野・日野南地区の計画では事務局として推進機能を担っている。これら事業の推進のため、毎月の所内5職種会議 事業連絡会議などで情報交換、意見交換を行っている。

区からのコメント

個別支援について、ケアプラザ内の居宅事業所やケアマネジャー、医療機関等ともうまく連携しながら対応していただきました。こうした速やかな対応と継続的な支援により、地域や民生委員、ケアマネジャー等からの信頼も得られています。引き続き良好な関係を築いていけるよう、よろしくお願いします。また、地域ケア会議については、5職種で連携しながら進めることができました。地域での地域ケア会議への理解が深められるように、引き続き継続して実施されることを期待します。

様々な人にケアプラザを知ってもらうために公式Lineを開設するなど工夫をしています。今後はこれまで情報が届きにくかった人へもケアプラザの存在を知ってもらえるよう活用をお願いします。コロナ禍を通してこれまで行われていた地域活動の大切さに気付くことができたかと思います。制約がある中でも利用団体がモチベーションを保ち活発に活動を行っていただけるような事業実施及び支援をお願いします。オンライン相談ができる環境が整ったかと思うので積極的に活用願います。